

【INTRODUCTION】

チャンピオンリング

おそらくこの単語を初めて聞く方もいるだろう。これはスポーツ競技において1シーズンを戦い抜き、優勝にたどり着くなど、最終的な勝者となった者たちに与えられる栄誉の象徴だ。

トロフィーや優勝旗などチームに与えられるものと違って、選手やチームスタッフ個々人に贈られるため、彼らにとって誇りを形に表す特別な記念品となっている。

元来、高校や大学などで学業を修め

卒業するときに作られたカレッジリングが、スポーツの世界にも応用されたもので、

ベースボール（MLB）、バスケットボール（NBA）、

アメリカンフットボール（NFL）、アイスホッケー（NHL）という、

北米の4大スポーツから始まったといわれている。

主にはポストシーズンを制したチームに対し、

球団などが記念に製作することが一般的だが、

近年はダーツなどの個人競技でも作られているようだ。

また我が国、ニッポンでもプロ野球、プロバスケットボール

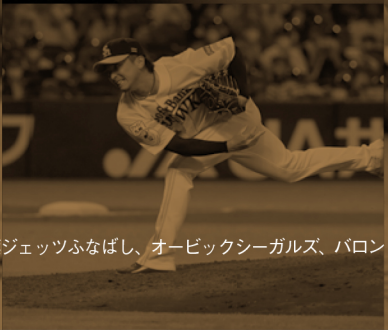
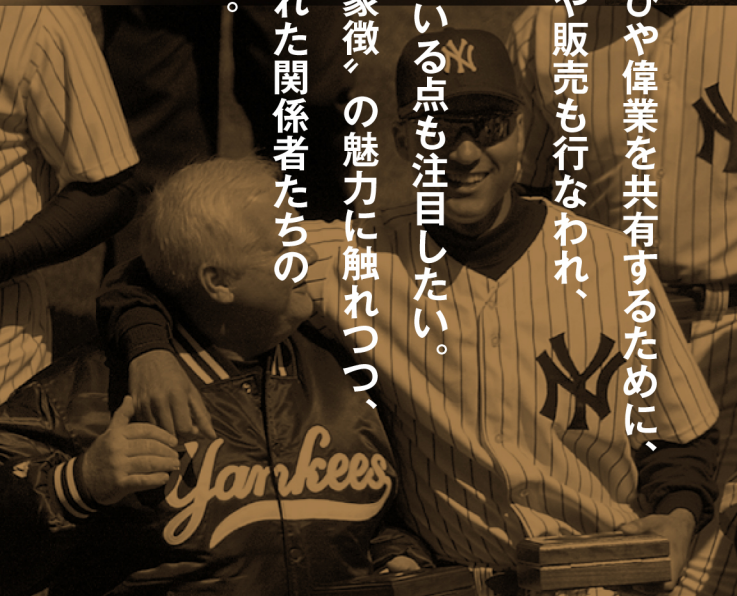
アメリカンフットボール、ラグビーなどを始め、eスポーツなどでも勝利の象徴として提供され、チャンピオンリングが浸透しつつある。勝者にふさわしく、そのデザインは力強くまた豪華絢爛なものが多い。

その製造方法は金型鑄造によるハンドメイドが主体で、天然貴石など高価な素材が用いられる。サイドパネルには選手の個人名、背番号、シーズン中やプレーオフなどの成績が刻まれるため、ワンアンドオンリーの記念品であることもその存在感を高める一因だ。

また勝者となったチームの喜びや偉業を共有するために、ファン向けにレプリカの配布や販売も行なわれ、チームとファンをつなぐ

「絆」としての役割を果たしている点も注目したい。

本誌ではこの特別な「王者の象徴」の魅力に触れつつ、チャンピオンリングに込められた関係者たちの「熱い思い」にも迫ってみたい。

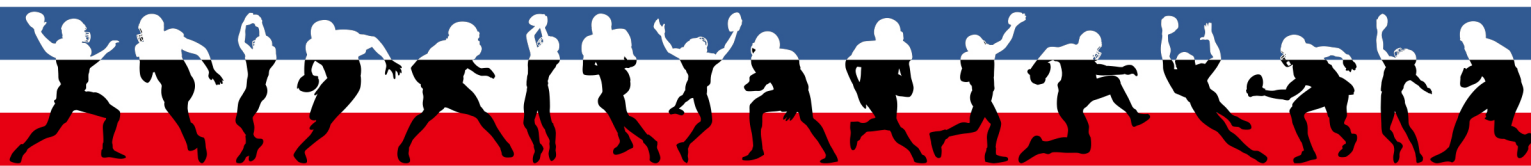




選手にとってチャンピオンリングは勝者の証となるものだが、ファンにとっては優勝という同じ夢を見、その達成の喜びを分かち合う絆なのである。©アフロ

CONTENTS

イントロダクション	004
目次	006
人類にとっての指輪始め 文・イラストレーション/高山宗東	008
北米チャンピオンリングの歴史	012
MLBのチャンピオンリング	014
NBAのチャンピオンリング	022
NFLのチャンピオンリング	028
NHLのチャンピオンリング	034
日本のチャンピオンリング	036
福岡ソフトバンクホークス	038
日本ハムファイターズ	048
東京オリンピック2020 侍ジャパン	051
ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボール・リーグ チェアマンに聞く	054
千葉ジェッツ 富樫勇樹選手に聞く	056
オービックシーガルズ 大橋 誠HCに聞く	064
埼玉パナソニックワイルドナイツ 内田啓介選手に聞く	070
モンスターストライクプレイヤー けーどら選手に聞く	074
Champion Ring@SOCCER	076
対談・チャンピオンリングを仕掛ける男たち	078
本場北米チャンピオンリングメーカー バロン社に聞く	082
潜入! チャンピオンリング製造の現場	086
フィリップチャンピオンリング アンド カレッジリングに聞く	092



NFL

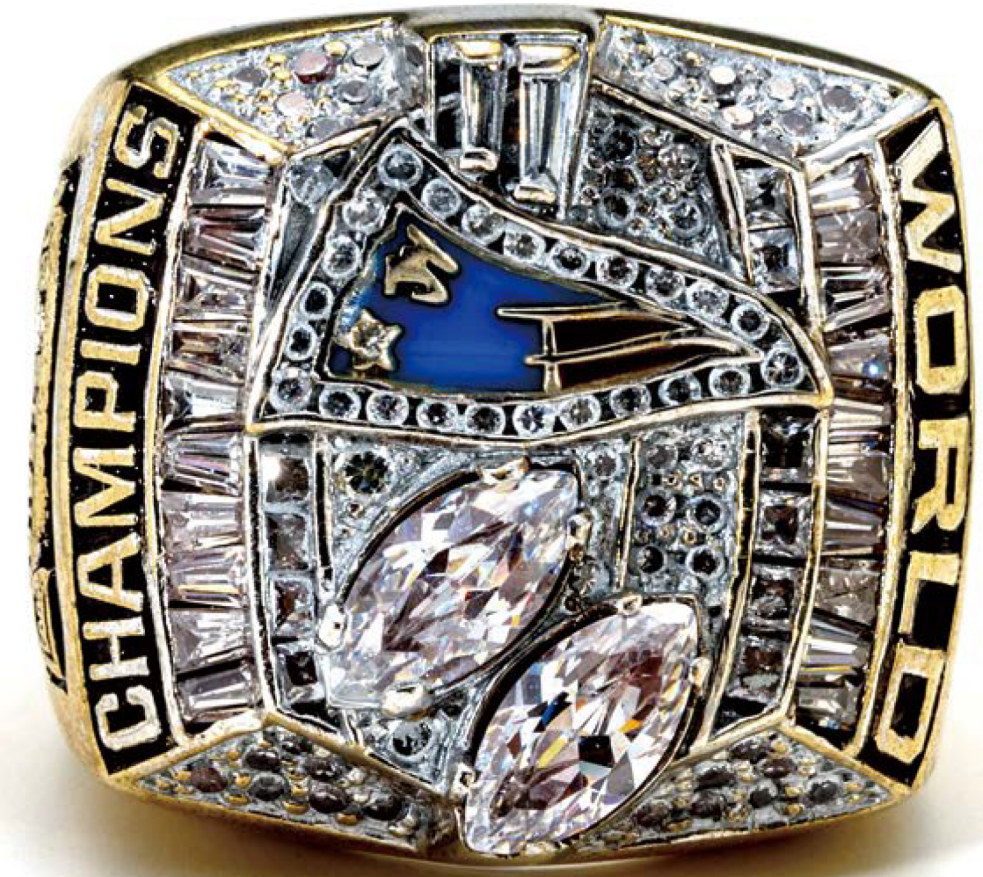
[NATIONAL FOOTBALL LEAGUE]

NFL (ナショナルフットボールリーグ) は4大スポーツのなかでも本国アメリカではもっとも人気のあるスポーツの座を守り続ける。なんといってもその魅力は大男たちがフルスピードで繰り広げる肉弾戦の迫力満点なプレイにある。華やかなパスプレイ、何人ものタックルをかわして進められるランプレイのひとつひとつに、見る者の熱狂を誘う。全米32チームが2月に行なわれるNFL優勝決定戦「スーパーボール」でチャンピオンリングを獲得することを目指して、レギュラーシーズン、プレイオフを戦い抜いていくのである。



① ニューイングランド・ペイトリオッツ 2001年

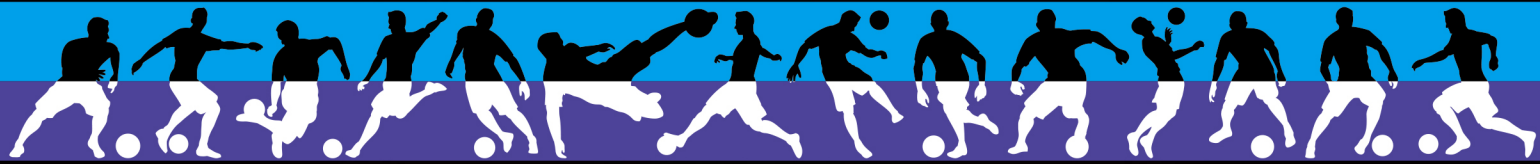
チームロゴをエナメルとラインストーンでトップに表現。マークスカット (フットボール型)、テーパーカット台形と多数のカットのダイヤで立体的で複雑なトップを形成している点がみどころ。



① ニューイングランド・ペイトリオッツ 2003年

「プレイディ王朝」が始まった2001年につづき2003年もスーパーボウル制覇。トップは複雑な立体形状で、さらにバケットカット・マークスカット・プリンセスカットと通常のラウンドカットと計4種のさまざまな大きさのダイヤモンドが複雑さを増幅している。技巧の凝らされたデザインといえる。





SOCCER JAPAN

今回直接お話をうかがうことはかなわなかったが、サッカーのJリーグでもチャンピオンリングを贈呈している。
J1で2017年を皮切りに2021年まで4度のリーグ制覇を果たした川崎フロンターレ。
それぞれにこだわりと想いの詰まった4個のチャンピオンリングを紹介する。

文/本誌編集部 写真/藪崎大 (WPP)



J1の常勝軍団である川崎フロンターレには、4個のチャンピオンリングと1個のメモリアルリングが存在する。先に紹介したチャンピオンリングのほかに、2020年に現役を引退した中村憲剛選手への引退メモリアルリングもあるのだ。チームのレジェンドに対する想いが感じられる。



川崎フロンターレ

2018年

前年の初優勝からの連覇を達成。リングに描かれた“NIBOSHI”の文字は、連覇の星ふたつの意味。センターストーンには、新素材のマルチカラーストーンを使い、ブルージルコンをベースにブラックフィルムを縦半分のみ表裏に熱圧着。昨年ユニフォームをイメージした、ツートンカラーにした。

川崎フロンターレ

2017年

Jリーグトップチームとして常上位争いを演じてきた川崎フロンターレ。クラブ創設21年目にして初優勝を飾った。ぎりぎりまで死闘を繰り広げ、最終戦での逆転優勝だった。リングは、選手、コーチ陣、サポーターが同じリングのカタチを共有することをコンセプトに作られた。



川崎フロンターレ

2021年

2020年に続きリーグ連覇と遂げた2021年のチャンピオンリング。クラブ創設25周年をむかえ4度目のJ1優勝となった。J1リーグ優勝記念グッズの最終弾として、サポーター用のチャンピオンリングも販売された。

川崎フロンターレ

2020年

コロナ禍により、リーグ戦の中断や無観客試合があった中、圧倒的な強さでリーグを制覇した川崎フロンターレ。リーグ4試合を残して、J1史上最速優勝となった。同シーズン限りで引退した中村憲剛選手に最高の花道となった。